

令和6年度 県民歯科保健実態調査 調査結果の概要

I 幼児、児童・生徒

1 対象者

神奈川県内在住の3歳児6,078名、5歳児2,512名、小学4年生5,029名の保護者、中学1年生5,916名、高校1年生6,529名を対象に実施しました。集計作業の結果、3歳児3,685名、5歳児2,068名、小学4年生3,525名、中学1年生5,371名、高校1年生6,070名の合計20,719名を分析対象者としました。全体の回収率は79.6%で、有効回答率は79.5%でした。

2 生活習慣の状況

(1) 甘いお菓子と甘い飲み物の摂取頻度

「甘いお菓子（アメ、チョコ、ガム、アイス、スナック菓子など）を食べますか。」の問いに、「毎日食べる」と回答した者の割合は、3歳児では45.4%、5歳児では74.0%、小学4年生では69.8%、中学1年生では36.4%、高校1年生では44.7%でした。

前回の調査（令和2年度）と比較すると、「毎日食べる」と回答した者の割合は、3歳児ではほとんど変化はみられませんでしたが、5歳児、小学4年生で、中学1年生、高校1年生では増加していました。

「甘い飲み物（乳酸菌飲料、ジュース、スポーツドリンクなど）を飲みますか」の問いに、「毎日飲む」と回答した者の割合は、3歳児では25.4%、5歳児では24.3%、小学4年生では23.3%、中学1年生では25.0%、高校1年生では29.1%でした。前回の調査（令和2年度）と比較したところ、「毎日飲む」と回答した者の割合は、いずれも減少していました。

(2) 歯みがき習慣等

○ 歯みがきの習慣

「毎日みがく」と回答した者の割合は、3歳児では96.9%、5歳児では98.3%、小学4年生では97.5%、中学1年生では96.5%、高校1年生では97.1%でした。

前回の調査（令和2年度）と比較したところ、「毎日みがく」と回答した者の割合は、いずれも増加していました。

○ フッ化物（フッ素）入りの歯みがき剤の使用

フッ化物（フッ素）入りの歯みがき剤を「毎日使う」と回答した者の割合は、3歳児では76.7%、5歳児では77.9%、小学4年生では68.9%、中学1年生では36.4%、高校1年生では39.6%でした。前回の調査（令和2年度）と比較したところ、「毎日使う」と回答した者の割合は、3歳児では72.6%から76.7%へ、5歳児では74.7%から77.9%へ、小学4年生では62.5%から68.9%へ、それぞれ増加し、中学1年生では45.8%から36.4%へ、高校1年生では46.1%から39.6%へ、それぞれ減少していました。

○ 15歳未満でフッ化物応用の経験がある者の割合

15歳未満にあたる、3歳児から中学1年生までの、フッ化物配合歯みがき剤の使用、フッ化物洗口及びフッ化物歯面塗布のいずれかを経験している者の割合は、88.0%でした。

15歳未満のフッ化物配合歯みがき剤使用者についてみると、令和2年度で72.5%であったところ、令和6年度で73.1%とほぼ横ばいでした。（表1）

表1 フッ化物応用の経験がある者の割合

(単位：%)

	フッ化物配合歯みがき剤使用経験者	フッ化物洗口経験者	フッ化物歯面塗布経験者	いづれか経験している者			合計
				1つ	2つ	全て	
3歳	83.9		55.8	90.6	41.4	49.2	100.0
5歳	86.2	25.0	81.5	95.9	19.0	57.2	19.8
小4	80.3	31.9	88.3	96.4	18.2	52.4	25.8
中1	45.7	28.2	47.5	70.9	32.7	25.9	12.3
高1	48.9	27.4	53.8	74.9	32.8	29.3	12.9
3歳～中1 (15歳未満)	73.1	28.5	68.3	88.0	27.5	45.6	14.9
							100.0

(3) 歯科医院の受診状況

○ 1年間に歯科医院で受けた受診内容

歯科医院受診経験のある者の、この1年間の受診内容は、すべての年齢でどの年齢も「歯科検診」と回答した割合が最も高いという結果でした。

前回の調査（令和2年度）と比較したところ、「歯科検診」と回答した者の割合は、いずれも増加していました。「この1年間では、歯科医院にかかっていない」と回答した者の割合は、3歳児、5歳児ではほとんど変化がありませんでしたが、小学4年生、中学1年生、高校1年生では減少していました。

○ かかりつけ歯科医院を決めている者の状況

かかりつけ歯科医院を決めている者の割合は、3歳児では55.1%、5歳児では79.4%、小学4年生では89.9%、中学1年生では65.2%、高校1年生では66.0%でした。

前回の調査（令和2年度）と比較したところ、「決めている」と回答した者の割合は、3歳児では51.9%から55.1%へ増加し、5歳児では79.3%から79.4%へ、小学4年生では89.1%から89.9%へ、中学1年生では66.4%から65.2%へほとんど変化がなく、高校1年生では57.9%から66.0%へ増加していました。

3 むし歯（治療済の歯を含む）の自己認識について

（1）むし歯（治療済の歯を含む）の有無

「むし歯（治療済みの歯を含む）がありますか」の問い合わせに「ある」と回答した者の割合は、3歳児では5.0%、5歳児では20.9%、小学4年生では46.8%、中学1年生では39.8%、高校1年生では40.5%でした。前回の調査（令和2年度）と比較したところ、むし歯が「ある」と回答した者の割合は、3歳児では7.5%から5.0%へ、5歳児は29.8%から20.9%へ、小学4年生では50.0%から46.8%へ、中学1年生では41.8%から39.8%へ、高校1年生では41.3%から40.5%へ、いずれも減少していました。

II 成人

1 対象者

神奈川県歯科医師会会員の歯科診療所を受診した県内在住の患者に対して調査を行い、回収数は4,900人（回収率91.7%）であり、有効回答数は4,541人（有効回答率75.7%）でした。

外来患者・訪問患者別にみると、外来患者は回収数4,257人（回収率85.1%）、有効回答数3,974人（有効回答率79.5%）でした。訪問患者は、回収数643人（回収率64.3%）、有効回答数567人（有効回答率56.7%）でした。

2 口腔診査の結果

（1）現在歯の状況

○ 一人平均現在歯数

外来患者全体での1人平均現在歯数は24.8本であり、年齢階級別では50～54歳で27.1本となってから急速に減少し、80～84歳では20本以下（19.4本）でした。現在歯数の内訳は、全体平均では健全歯数12.9本、処置歯数11.2本、未処置歯数0.6本でした。（表2）

訪問患者の1人平均現在歯数は全体では16.1本であり、年齢階級別では55～59歳で26.9本となってから急速に減少し、65～69歳では14.8本で20本以下でした。現在歯数の内訳は、全体平均では健全歯数6.7本、処置歯数7.8本、未処置歯数1.4本でした。（表3）

表2 年齢階級別による1人平均現在歯数（外来患者）

（単位：本）

	健全歯数	処置歯数	未処置歯数	現在歯数		健全歯数	処置歯数	未処置歯数	現在歯数
20～24歳	24.2	3.0	1.1	28.3	55～59歳	12.9	13.1	0.4	26.5
25～29歳	22.5	4.7	0.8	28.0	60～64歳	11.5	13.3	0.5	25.5
30～34歳	20.3	7.1	0.7	28.2	65～69歳	9.7	13.6	0.4	23.8
35～39歳	18.1	8.5	1.0	27.7	70～74歳	9.0	13.2	0.3	22.6
40～44歳	17.7	9.4	0.5	27.8	75～79歳	8.4	12.4	0.4	21.2
45～49歳	14.9	11.8	0.6	27.3	80～84歳	6.9	11.9	0.5	19.4
50～54歳	14.4	12.1	0.5	27.1	85歳以上	5.7	11.4	0.6	17.8
					全体	12.9	11.2	0.6	24.8

表3 年齢階級別による1人平均現在歯数（訪問患者）

（単位：本）

	健全歯数	処置歯数	未処置歯数	現在歯数	年齢	健全歯数	処置歯数	未処置歯数	現在歯数
20～24歳	26.2	1.7	0.0	27.9	55～59歳	12.5	13.0	1.4	26.9
25～29歳	19.1	5.6	3.3	28.0	60～64歳	10.8	9.5	2.1	23.3
30～34歳	23.4	2.7	1.8	27.9	65～69歳	5.7	8.8	0.3	14.8
35～39歳	16.5	12.3	0.0	28.8	70～74歳	7.3	8.1	2.0	17.5
40～44歳	20.8	6.5	0.7	28.0	75～79歳	7.8	8.6	1.0	17.4
45～49歳	17.4	8.8	0.8	27.4	80～84歳	6.0	7.8	1.7	15.7
50～54歳	16.9	8.0	1.9	26.6	85歳以上	3.0	7.6	1.4	12.0
					全体	6.7	7.8	1.4	16.1

○ う蝕（むし歯）有病者率

外来患者全体でのう蝕有病者（処置完了者及び処置・未処置のある者、未処置者）は96.6%で、処置完了者は全体では73.8%、処置・未処置のある者は19.5%、未処置者は3.3%でした。

歯及び口腔の健康づくり推進計画（第2次）の指標について、計画策定時と比較すると、20歳以上における未処置歯（治療の終わっていないむし歯）を有する者の割合（年齢調整値）は、令和2年度25.6%（粗平均24.7%）が、令和6年度では23.5%（粗平均22.6%）と改善していました。

また、60歳以上における未処置の根面むし歯を有する者の割合（年齢調整値）は令和6年度で3.7%（粗平均3.7%）でした。

（2）歯の本数について

○ 年齢階級別による1人平均現在歯数

外来患者全体での1人平均現在歯数は24.8本であり、年齢階級では20～24歳の28.3本から緩やかに減少、50～54歳で27.1本となってから急速に減少し、80～84歳では20本以下（19.4本）でした。

訪問患者の1人平均現在歯数は全体では16.1本であり、年齢階級別では55～59歳で26.9本となってから急速に減少し、65～69歳では14.8本で20本以下でした。

○ 20本以上歯を有する者の割合

外来患者で20本以上の歯を有する者の割合は20～39歳で99%を超えていましたが、45～49歳の98.8%から年齢階級が上がるに従い減少し、85歳以上で52.6%でした。

歯及び口腔の健康づくり推進計画（第2次）の指標について、計画策定時と比較すると、40歳以上における自分の歯が19歯以下の者の割合（年齢調整値）は、令和2年度19.5%（粗平均21.5%）が、令和6年度では14.6%（粗平均16.7%）、80歳で20歯以上の自分の歯を有する者の割合（8020達成者率）は、令和2年度の53.4%が令和6年度で67.1%とそれぞれ改善していました。

（3）歯周組織の状況

外来患者の20～24歳における「歯肉出血あり（BOPコード1）」の者の割合は47.2%で、25～29歳以降は50%以上となり、55～59歳が最も高く62.4%でした。また、「4mm以上6mm未満の歯周ポケット（PDコード1）」と「6mm以上の歯周ポケット（PDコード2）」の者を合わせると、全体で56.6%でした。

歯及び口腔の健康づくり推進計画（第2次）の指標について、計画策定時と比較すると、20～30代における歯肉に炎症所見を有する者の割合（年齢調整値）は令和2年度で52.8%（粗平均52.9%）が、令和6年度で53.0%（粗平均52.9%）と、40歳以上における歯周炎を有する者の割合（年齢調整値）は令和2年度で67.8%（粗平均68.5%）、令和6年度で64.9%（粗平均66.1%）とほぼ横ばいででした。

3 生活習慣、歯科保健などに関する調査の結果

（1）咬合と咀嚼の状況

○ 咀嚼良好者の割合

外来患者で「何でも噛んで食べることができる」と回答した者の割合は、80.8%でした。50代までは緩やかに減少、60代から大きく減少し、80歳以上では60.4%でした。

歯及び口腔の健康づくり推進計画（第2次）の指標について、計画策定時と比較すると、50歳以上における咀嚼良好者の割合（年齢調整値）は、令和2年度で76.9%（粗平均75.9%）が、令和6年度で75.7%（粗平均80.8%）とほぼ横ばいでした。

（2）歯科医院の受診の状況

○ 過去1年間に歯科検診を受診した者の割合

外来患者で過去1年間に歯科検診を受診した者の割合は、64.4%でした。30歳代が最も低く55.2%で、その後年代が上がるに従い増加していました。

歯及び口腔の健康づくり推進計画（第2次）の指標について、計画策定時と比較すると、令和2年度で57.0%であったところ、令和6年度では64.4%と改善していました。

（3）口腔保健に関する保健行動と意識

○ 歯間部清掃用具の使用状況

外来患者で歯間部清掃用具を「ほぼ毎日使う」、「ときどき使う」と回答した者の割合は、81.4%でした。

○ かかりつけ歯科医を持っている人の割合

外来患者で「かかりつけ歯科医、かかりつけの歯科医院を決めている」と回答した者の割合は全体で69.5%でした。年代別に見ると、20歳代、30歳代では50%以下でしたが、40歳代から増加し、60歳代から80歳以上で約80%でした。（表4）

表4 年代別による歯や歯ぐきの健康への意識（外来患者）

（単位：人）

	かかりつけ歯科医、 かかりつけの歯科医院を決めている
20歳代	162 (45.1%)
30歳代	181 (49.2%)
40歳代	282 (57.3%)
50歳代	530 (69.7%)
60歳代	526 (79.6%)
70歳代	706 (81.1%)
80歳以上	373 (80.6%)
全体	2,760 (69.5%)

○ 歯周病が全身の健康に影響することについての認識

外来患者で歯周病と関係があると思うという回答が最も多かったのは「糖尿病」で、59.7%であり、「心臓病」が36.1%で次に多く、以降は多い順に「脳血管障害（脳卒中）」、「肺炎」、「未熟児（低体重出産）など妊娠への影響」となっていました。（表5）

表5 年代別による歯周病と関係があると思う全身疾患（外来患者）

(単位：人)

糖尿病	心臓病	未熟児（低体重出産）など妊娠への影響	肺炎	脳血管障害（脳卒中等）	未回答
2,374 (59.7%)	1,433 (36.1%)	701 (17.6%)	994 (25.0%)	1,050 (26.4%)	1,079 (27.2%)

○ 歯科保健に関する言葉の認知

外来患者で歯科保健に関する言葉について、認知している者の割合（「意味もわかる」と「言葉は知っている」と回答した者を合わせた割合）は、フッ化物洗口で51.4%、8020運動は58.0%、健口体操は37.9%でオーラルフレイルは44.4%でした。（表6）

表6 歯科保健に関する言葉の認知（外来患者）

(単位：人)

	意味もわかる	言葉は知っている	知らない	未回答
フッ化物洗口	899 (23.0%)	1,111 (28.4%)	1,801 (46.0%)	101 (2.6%)
8020運動	1,587 (40.6%)	680 (17.4%)	1,587 (40.6%)	58 (1.5%)
健口体操	610 (15.6%)	874 (22.3%)	2,365 (60.5%)	63 (1.6%)
オーラルフレイル	643 (16.4%)	1,096 (28.0%)	2,117 (54.1%)	56 (1.4%)

4 オーラルフレイルスクリーニングの結果

オーラルフレイルのスクリーニング問診票で、オーラルフレイルの危険性が「高い」とされる4点以上の者の割合は外来患者で57.8%でした。

外来患者を年代別に見ると、20歳代では4点以上の者はいませんでしたが、年代が上がるにつれて高くなり、70歳代及び80歳以上で4点以上の者の割合はともに66.7%でした。（表7）

表7 年代別によるオーラルフレイルの危険性（外来患者）

(単位：点)

	低い（0～2点）	あり（3点）	高い（4点以上）	未回答
20歳代	321 (89.7%)	12 (3.4%)	13 (3.6%)	12 (3.4%)
30歳代	316 (85.9%)	21 (5.7%)	18 (4.9%)	13 (3.5%)
40歳代	401 (81.5%)	39 (7.9%)	33 (6.7%)	19 (3.9%)
50歳代	574 (75.5%)	84 (11.1%)	71 (9.3%)	31 (4.1%)
60歳代	418 (63.3%)	83 (12.6%)	136 (20.6%)	23 (3.5%)
70歳代	476 (54.7%)	131 (15.1%)	237 (27.2%)	26 (3.0%)
80歳以上	167 (36.1%)	76 (16.5%)	208 (45.0%)	11 (2.4%)
全体	2,673 (67.3%)	446 (11.2%)	716 (18.0%)	135 (3.4%)

5 オーラルフレイルのチェック項目（OF-5）の結果

オーラルフレイルチェック項目（OF-5）でオーラルフレイルに該当したのは、37.2%でした。年代別に見ると、年代が上がるにつれて増加し、80歳以上では51.5%でした。（表8）

表8 年代別によるオーラルフレイルのチェック項目（OF-5）の結果（外来患者）
(単位：人)

	該当者	非該当者	全体
20歳代	61 (17.7%)	284 (82.3%)	345 (100.0%)
30歳代	100 (28.3%)	253 (71.7%)	353 (100.0%)
40歳代	146 (30.9%)	326 (69.1%)	472 (100.0%)
50歳代	270 (37.7%)	447 (62.3%)	717 (100.0%)
60歳代	256 (40.8%)	371 (59.2%)	627 (100.0%)
70歳代	346 (42.5%)	469 (57.5%)	815 (100.0%)
80歳以上	219 (51.5%)	206 (48.5%)	425 (100.0%)
全体	1,398 (37.2%)	2,356 (62.8%)	3,754 (100.0%)

◎ 令和6年度県民歯科保健実態調査結果

https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cz6/cnt/f417679/r6_kenminshikahoken.html